

令和7年度 第2回熊本市小中一貫教育懇談会議事録

日時：令和7年(2025年)9月29日(月)

14:00～15:30

場所：熊本市教育委員会 7階D会議室

○議事録

- 1 開会
- 2 教育委員会事務局あいさつ（福田教育次長）
- 3 協議
 - (1) 事務局説明
 - ① 第1回の協議内容について
 - ② 「今後の小中一貫教育及び幼小中連携教育の取組（詳細）について」
 - (2) 意見交換
 - ① 事務局からの提案内容について
 - ② 本年度のテーマについて（現在の取組や今後の志向も含めて）

坂本指導主事（指導課）	<p>3 協議</p> <p>(1) 事務局説明</p> <p>①第1回の協議内容について</p> <p>最初に第1回小中一貫教育懇談会のまとめについて説明する。</p> <p>今年度の懇談会の目標は「小中一貫教育及び幼小中連携教育について、これから各学校が主体的に取組を進めていく（自走していく）ために、どのような仕組みを整えればよいか」となっている。</p> <p>前回の懇談会では、教育委員会事務局としての今後の取組案ご説明させていただき、委員の皆様からもご意見をいただいた。</p> <p>教育委員会事務局としての今後の取組案を4点説明した。</p> <ol style="list-style-type: none">①小中一貫教育や幼小中連携の担当者用の手引書の作成②幼小中連携の日の実施記録の改訂③事例紹介方法の検討④各種助言・支援 <p>の4項目であった。</p> <p>本日は、この4項目の詳細案を後程ご説明させていただく。こちらが前回委員の皆様からいただいた意見のまとめになる。</p> <p>各中学校区の取組や実態を含めながら、テーマにそって貴重なご意見をいただいた。</p> <p>前回の懇談会の議事録と資料1の概要版については、熊本市のホームページに掲載している。ぜひご覧いただきたい。</p> <p>②「今後の小中一貫教育及び幼小中連携教育の取組（詳細）について」</p> <p>続いて、教育委員会事務局の今後の取組の詳細案についてご説明する。</p> <p>まず、資料2の幼小中の連携及び小中一貫教育担当者の手引（案）についてご説明する。</p> <p>内容として、</p> <ul style="list-style-type: none">・小中連携教育と小中一貫教育についての概要説明・本市の取組について・担当者の動きの例について・ホームページの活用などの広報活動
-------------	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・支援体制としてオンライン相談会の実施について ・最後に参考資料の紹介 <p>となっている。</p> <p>3 ページは、小中連携教育と小中一貫教育についての概要説明になる。文科省の資料をもとに概要の説明と中学校区の課題を解決したり、長所をさらに伸ばしたりするために幼小中の連携や小中一貫教育を活用すること説明している。</p> <p>5 ページは、本市の取組についての説明になる。本市の教育振興基本計画における幼小中の連携と小中一貫教育の位置づけやA、B、Cグループの解説、幼小中の連携や小中一貫教育についての具体的な取組例を掲載している。</p> <p>9 ページには乗り入れ授業の通知文と事例集の紹介もしている。</p> <p>10 ページは、幼小中の連携や小中一貫教育の担当者向けに、幼小中連携の日を軸として担当者の1年間の動きの例を紹介と好事例一覧やオンライン相談会の案内をしている。</p> <p>12 ページには広報活動としてホームページの活用の好事例の紹介、13 ページにはオンライン相談会の案内と参考になる資料の紹介をしている。内容の修正や他にも掲載した方がよい内容などがあれば、後程ご意見をいただければと思う。</p> <p>続いて、②幼小中連携の日実施記録の改訂である。前回記入する項目について案を出させていただいたが、今回具体的な様式と記入例を作成している。</p> <p>資料3の①と②が小中一貫教育及び幼小中連携に関する実施記録（A、Bグループ用）と記入例、資料3の③と④が幼小中連携に関する実施記録（Cグループ用）と記入例になる。両様式とも「本年度の評価」の部分で各中学校区独自の評価指標を可能な範囲で入れていただけるように、記入例を通して説明をしている。こちらも内容の修正や他にも掲載した方がよい内容などがあれば、後程ご意見をいただければと思う。</p> <p>続いて、③事例紹介方法の検討として、資料4をご覧ください。小中一貫教育推進サポーターの巡回や資料3の実施記録から情報を整理し、該当の学校へ取組に関する資料提供をお願いして、提供いただいた資料をe-net 共有に保存する。この「好事例一覧」のデータファイルの横に資料のフォルダを準備しておき、取組の参考にしたい場合に資料を閲覧できるようにしたいと思う。例えば取組の実施要項などがあると、計画の全体像や留意点などが伝わり、似たような取組をする場合に手助けとなると思う。こちらも後程ご意見をいただければと思う。</p> <p>最後に④各種助言・支援になる。小中一貫教育推進サポーターによる助言や支援、巡回による情報収集及び情報提供をこれまで通り行っていきたいと思う。</p> <p>資料5は小中一貫教育推進サポーターの坂本主任主事が作成している小中一貫教育だより「つなぐ」の令和4年度分のダイジェスト版である。写真等を省いて、1年間分をPDFファイルにしている。こちらを熊本市のホームページに掲載し、これまでの熊本市の取組を残していくと同時に、先生方もいつでも閲覧でき、市民や県外の方へも広報ができると考えている。もちろん、令和5年度、6年度分もダイジェスト版として掲載する。令和</p>
--	---

	<p>7年度分は年度末にダイジェスト版にして掲載する。</p> <p>さらに、先ほど「担当者の手引き」の中でも触れたが、幼小中の連携や小中一貫教育の担当者向けの相談会を実施したいと考えている（希望者のみ）。実施方法はZOOMによるオンライン形式で、第1回は幼小中連携担当者会の後、第2回は7月下旬、第3回を12月下旬としている。第1回目は幼小中連携担当者会の後に各中学校区で幼小中連携の日に向けての打合せの時間をとっているので、その際に適宜質問していただく形で、事前の申し込みは必要ない。第2回目と第3回目は開催月の前半までにTeamsのチャットで申し込みをする形式を考えている。詳しい説明は5月の幼小中連携担当者会の中で案内をしたいと考えている。長期休業中ではあるが、相談者の都合を聞きながらスケジュールリングができればよいと考えている。</p> <p>このあとは意見交換になる。最初に先ほどの事務局からの提案内容についての質問やご意見があればいただきたい。</p> <p>その後、「小中一貫教育及び幼小中連携教育について、これから各学校が主体的に取組を進めていく（自走していく）ために、どのような仕組みを整えればよいか」というテーマについて、現在の取組や今後の志向も含めてご意見をいただければと思う。事務局の説明は以上である。</p>
岡村座長 （九州ルーテル学院大学准教授）	<p>それでは、意見交換に移っていく。先日の第1回の時にも申し上げたが、今のところの予定では、この小中一貫教育懇談会は、今回が最後の予定になっている。今後、自走していくという形に向けて、教育委員会から今回出された資料を有効活用していきたいというところであるので、ぜひ皆様からも、些細なことでも結構なので、色々意見をいただいて、それをたたき台とし、また良いものを作っていくって次年度に備えていくという形になろうかと思うので、普段は先生方の各学校の取組等をお話いただく時間がメインとなっているが、今回は教育委員会からの資料について、気になる点やご質問等のご意見を教育委員会にフィードバックとしてお返しすることをメインとさせていただければと思う。</p> <p>一気に説明が出たので、どこから行こうかという状態になっておられる先生方もおられるかと思うが、まず手引きの資料2を先生方ご覧になられて、何か気になったところはあるか。</p> <p>デザインからして、教員がこの手引きを開いた時にはこれは見づらいと思われるのであれば、シンプルにそうおっしゃっていただいてもいいと思う。</p>
坂本委員 （天明中学校長）	<p>4ページに、小中連携教育、小中一貫教育の効果というのが出ているが、先ほど坂本指導主事の方から文部科学省のデータを使いながらということで説明があったが、これは平成24年7月の文部科学省の資料の効果なので、これを熊本市が小中一貫教育を行ってきて、こんな効果があるという内容にした方がよいのではないかと。</p>
岡村座長	<p>おっしゃる通りだと思う。平成24年であると、当時の小学1年生も大学生であるので、熊本市でどういう効果が見られているかという、本市の中での取組や効果を載せられる範囲で載せていった方がいいのではないかと。</p>

坂 本 委 員	<p>小中連携教育及び小中一貫教育について、とても詳しくまとめているが、先生方がまず概要を掴みやすいように、概要版があるとよいのではないか。</p> <p>例えば、私がこれを見ていった時に、4ページの小中一貫教育にどんな効果があるのかというのが1つと、5ページのどの学校がどのグループになるかというところは知っておくべきだが、特に6ページのA、B、Cでこんな取組ができるといったところを中心に企業のチラシのようにA3、1枚でもよいのでまとめてみてはどうか。「熊本市の小中一貫教育はこれですよ。」といったひとまとめにしたのがあるとインパクトがあるのではないか。そして、「詳細は手引きを見てください。」という感じかなと思う。とてもしっかりまとめられてるのはわかるのだが、「これを読んでください。」と先生方に言った時に、いきなりは難しいのではないかなと思う。</p>
岡 村 座 長	<p>そういう意見をぜひいただきたいと思う。私もこれを見始めた時に、その担当の先生が、これを渡され、「あなたは小中一貫教育担当者ですよ。」と言われた時に、何をすればよいかということにたどり着くまでに、「そもそもこの取組は…」の説明が割と長く続いていくので、これはどちらかというと、学習指導要領解説のようであって、必要に応じて見るべきところを見るものであった方がよいのかなと思う。細かく書くことは大切ではあると思うが、そういう扱いをした方がよいのかなと思う。学習指導要領解説を全文頭から読む人は、先生方でも少ないと思うが、でも、学習指導要領は全部読んでおかなければならないといったイメージで、抑えておかなければいけない部分とそうでない部分がある程度分かれていてもよい。もしくは、例えば各ページの1番下にまとめが書いてあるといったように見せ方を工夫しながら、もう少し段階を考えて作っていただいた方がよいのではないかなと思う。</p> <p>あともう1つ気になった点としては、4ページの小中連携教育、小中一貫教育の効果は、平成24年の文部科学省の資料は大事なことではあると思うが、「どういうこどもを育てたいか」という熊本市教育基本計画の中に載っていることを実現するために小中一貫教育や幼小中の連携をしていくと、こういった点において効果が出ますということであって、小中一貫教育をするのは、あくまでも教育全体の水準を上げていくためである。その中で不登校出現率が減少するといったような効果も期待されると思うが、全体のページの構成を考えた時に、最初に効果の話から始まっているのだろうかということを感じた。</p> <p>あくまでも、「どんなこどもたちを育てていきたいのか」、「こどもたちにどういう大人になってもらいたいのか」、そのために小中一貫教育という方法があるわけで、特にこの方法は、こういった点においてアプローチしやすいということで、最初に私たちは何を目指しているのかといった部分はぜひ入れてほしい。これをご覧になられた先生方には、単純に「児童生徒の規範意識の向上のために小中一貫教育を行う」とは思っていない。意識していただきたいのは、あくまでも目指すべきこどもの姿があり、そのために取り組むというところなので、そういった部分が伝わる形にしてほしい。</p>

沖 田 委 員 (出水中校長)	6 ページの主な取組をまとめた表について、これがとても見やすいと思った。そこで、B の「△」と C の「ー」の違いは何か。C でも一部できる部分があるのではないかと、C の「ー」にするとしなくていいという風な捉え方をされるのではないかと考えた。表現の仕方のところで、できればやってほしいというようなメッセージを伝えてもよいのではないかと考えた。
坂 元 委 員 (楠 小 教 頭)	今の「○」と「△」と「ー」のことについて、C グループは小中一貫カリキュラムというのをなかなか作るのが難しいというのが現状としてあったので「ー」になっていると認識している。ただ、C グループでもできる部分があると考えれば「◎」「○」「△」という形で表現し直すとよいのではないかと思う。
岡 村 座 長	これに関しては間違いなくそうした方がよい。この会でも何度も出ているように、「できることをできるところから、できる範囲で取り組む」。これは小中一貫教育と幼小中の連携においては、キーワードであるので、そうした方がよい。
坂 元 委 員	4 ページの効果の部分だが、これは確かに文部科学省から出ているものだと思う。実際、不登校出現率の減少が 1 番の効果となっているのかというと、なかなか難しいのではないかとされるがいかがか。小中一貫教育の調査について、現在はどのようなになっているのか。
坂本指導主 事	昨年度まではこれまでとほぼ同じ内容で実施したが、今年度は大幅に形を変える予定である。
坂 元 委 員	調査結果がここ 3、4 年ぐらひは多分蓄積してあると思う。以前の資料を見ると、本市として例えば「滑らかな接続」などが効果として挙げられるのではないかと思う。
岡 村 座 長	<p>例年、年度末の第 3 回の会を出していただいているアンケート結果の有意差が出ているようなところや保護者や子どもたちから反応が良かった部分などを出していただいた方がよいのではないかと思う。そして、それが 5 ページ目の熊本市の目指す取組の部分とある程度紐付けられるような形になるとよいかもしれない。</p> <p>ここにおられる皆さんは全員共通理解している部分だと思うが、平成 24 年はコロナ前なので、不登校出現率に関しては当時と数値が大きく変動していると思うので、効果の部分については、全体的にデザインを変更して、既に文部科学省が報告していることとして URL を載せておくことは大切だとは思いますが、熊本市として実際にこれまで取り組んできた中で、効果が出ている部分をデータとしてお示しできるとよりよいのではないかと思う。</p>
福田教育次 長	なかなか数字として出にくい部分もあるが、各学校で取り組んでいただいていることの内容は非常に価値あるものが多く、こんな効果がこどもた

	<p>ちに見られたとか、声が聞かれたとか、数字でないと弱い、学校の実践に役立つ資料になるだろうと思う。そういった内容はアンケート結果の資料として蓄積があると思うので、各学校の取組に繋がっていくのもよいと思う。</p>
坂本指導主事	<p>アンケート結果や先生方の感想からも効果について紹介していきたいと思う。</p>
水本委員 (富合小校長)	<p>担当者の手引きを読ませていただいたが、とてもよく作ってあると思う。表紙に「担当者の手引き」とあるので、これはあくまでも担当者の方に見ていただくためだと思うので、ある程度詳しく網羅的に全部示されるような形で作られていると思う。一方で、先ほどから出てるダイジェスト版というのは、全ての先生たちが熊本市の小中一貫教育の全体像を掴むためにはとてもよいと思ったところである。</p> <p>毎年担当者会をされており、この手引きに書いてあることを説明されているとは思いますが、担当者も職員も熊本市の小中一貫に取り組んでいる効果や成果を実感できないとモチベーションに繋がらないと思う。そういうことで、話が出ているように、熊本市で蓄積している調査結果を基に成果を示していくことが大切だと思う。こどもの声とか職員の声とか、効果が出ていると思うので、そういうものを紹介していただきたいと思う。合わせて難しさはあると思うが、数値等の客観的なデータが出せるなら、ある程度出していくことで、担当者のモチベーションを上げていただきたいと思う。学校現場にいて、先生方のやる気とか取り組む意欲を高めるのは管理職の仕事だというのはわかっている。機会があるごとに、先生たちには小中一貫教育の取組の大切さを伝えているが難しい部分もある。客観的なデータがあり、こどもたちや先生たちが良くなるというようなデータを示していただけるとありがたい。</p>
岡村座長	<p>確認だが、この手引きはホームページに載るのか。</p>
坂本指導主事	<p>今のところ担当者会をするにあたり、教育支援システムの共有フォルダに保存しておこうと考えている。</p>
岡村座長	<p>URL がリンクで貼ってあるものに関しては、オンラインで見たいればその場で開くことができる。</p>
坂本指導主事	<p>担当者には PDF ファイルでダウンロードできるようにする予定である。</p>
村本委員 (向山幼稚園長)	<p>この手引きは本当にわかりやすく、とてもよいと思う。この表紙で幼小中の連携というのがあたまにきており、この「幼」というのは、幼児教育施設のことだと思うが、その幼児教育施設にこの熊本市の取組をどのように発信していくのか。4 ページの下の方に、こどもたちや保護者、地域が一丸となって取り組もうとあるので、どうやってその保護者とか地域とかにこの取組を伝えていくのか。広報用のホームページがあるということだ</p>

	<p>ったが、そこは見に行った人しかわからない。そうではなく、熊本市はこんな子どもたちを育てるために、こんなことに力を入れていくというような、発信の仕方の工夫が必要だと思った。</p>
岡 村 座 長	<p>保幼小に関しては、これまでの懇談会の大きな課題でもあり、最近は架け橋プランも出ているので、どういう形で進めていくかということに関しては議論をしていかなければいけないのではないかと思います。表記上、「保幼小」という表記にするのは、教育委員会としては難しいか。</p>
坂本指導主事	<p>ここ数年で検討はされてきたが、幼稚園や保育園以外にも幼児教育の施設があるので、それらも含めた幼児教育施設ということで、「幼小中」という表現になっている。</p>
村 本 委 員	<p>今、校区で行われている幼小中連携の日において、向山小に通う主な幼児教育施設には参加のご案内をさせていただいている。幼稚園だけでなく、こども園などにも案内をしている。この「幼小」の「幼」の意味は幼児教育施設という風に捉えることはできるかなと思う。座長から話があったように、今年から架け橋期のカリキュラム作りに取り組み始めているので、この資料にそれを付け加えることも大切なことなのではないかと思う。</p>
岡 村 座 長	<p>「幼」の部分については、幼児教育施設を合わせたものにするのか、項目を分けるのかについては検討の必要があると思うが、今回のこの手引き自体が「小中」に少し偏っている印象を受けるので、もう少し「幼小」に関する部分について何らかの形で言及をするか、もしくは「架け橋期の取組も含めて連携を深めていきましょう」という程度で留めてもよいので、何らかの形でもう少し「幼小」について触れていく必要があるかなと思う。</p> <p>実際に、この手引きの6ページに1つだけ幼小の連携の事例があるが、事例としては、多分ほとんどの学校が取り組んでいることではないかなという気もするので、入れること自体は構わないと思うが、どういう方針で教育委員会としては今後、幼小連携を推進していくのかといったことも検討いただき、この手引きの練り上げを進めてほしい。ここについては、項目を加えるか、中の情報量を増やすのかのいずれかで検討していただきたい。</p> <p>事務局から10ページの項目数についてどうかという話があったが、先生方、ご覧になられていかがか。</p>
坂 元 委 員	<p>この資料は、熟考して作成していただいております、大変ありがたい。10ページの「担当者の動き」について、担当者の年間の動きを全て整理してくださっていると思う。先ほどから出ているように、小中一貫教育、小中連携教育のカリキュラムのように1枚で表すとより分かりやすいのではないかと思います。思い見させていただきました。</p>
岡 村 座 長	<p>実際、担当になられた先生が1番何度も見るページがおそらくこの10ペ</p>

	<p>ージ、11 ページだと思うので、坂元委員からあった通り、もし可能であれば1枚にできると、担当の先生はそれを見えるところに貼ることもあるだろう。</p> <p>ものすごく細かいことだが、この11ページの1番下の文章の部分の、「この全て取り込まなければならないということではありません。」の部分は太字にしておくとういかもしれない。</p>
坂 本 委 員	<p>「カリキュラム」や「幼小中連携の日に向けての準備」など重なっているものがあるので、中学校の委員会活動の計画のように常時活動や学期ごとの活動といった形でまとめて表現する方法もあると思う。2月の「連携カリキュラム」の前に「幼小中」が抜けているのはなぜか。</p>
坂本指導主事	<p>「連携カリキュラム」の中にまだ幼児教育施設が入っていない校区があるためである。今年度中には全ての中学校校区で入る予定なので、将来的には「幼小中連携カリキュラム」となる。</p>
坂 本 委 員	<p>天明中学校区は保育園しかない。先ほどあったように「幼」は、幼児教育施設と把握しているが、天明中学校区は「幼保小中連携」という言葉にしている。</p>
坂本指導主事	<p>実際、カリキュラムにそういう名称を使っている校区はあるが、特に制限はしていない。保育園しかないので、「保小中連携の日」という表現で案内文を作成している校区もある。</p>
岡 村 座 長	<p>今の点の確認だが、11月とか1月に書いてある「カリキュラム」というのは、これは何を指しているのか。</p>
坂本指導主事	<p>ここが分かりづらいというのが課内でも指摘があった。11月とか8月に幼小中連携の日があるが、その中でカリキュラムの見直しをするのか、新たに作成をするのか、またはそれを使った授業をやってみるのかなど、色々な場合があるかなと思い、ぼやかした形で書いている。実際は見直しなどが多いと思う。</p>
岡 村 座 長	<p>「カリキュラムの検討」といった表現にしておくとういかもしれない。</p>
藤 枝 委 員 (市 P T A 協議会)	<p>保護者の方からすると、8月と3月のホームページ更新というところでしか私たちは目に触れることができないと思う。広報活動については、12ページにも書いていただいているが、おそらくそれぞれの学校でホームページがあったり、インスタグラムをされてる学校があったりなど、学校によってバラバラだと思う。今、統一してみんなが使えるのは、「すぐーる」である。保護者としても、「すぐーる」を使って全保護者に連絡をする場合があるので、来年すぐは難しいと思うが、例えば、「すぐーる」を使って、4月に1回、5月に1回といった月1回のマガジンみたいな感じで、「幼小中の連携とは」というところから4月が始まって、5月はこういうことをしてますよとか、こどもたちはこういうのをしましたよというの</p>

	<p>が、学校があつている 10 回分とか 9 回分があれば、先生たちにも 1 年目とか 2 年目というのは、それで簡単にこうやっていくんだなというのがわかると思う。そこで、2、3 年目になった時に、その学校の独自の発信内容にしてマガジンみたいな感じで、保護者に発信していただけると、こんなことやってるんだというのが、ぱっと目で見てわかるかなということを感じた。どうしても保護者の方が見に行くということをしなければ、目に触れない。こどもたちに紙で渡しても、バックの中で眠っているだけになってしまう。恥ずかしい話だが、保護者自身も見に行こうという気持ちがある方は少ない。発信されたものに対しては、「何か来てるな」と思って必ず見ると思うので、そういうのがあると、保護者としては、「あ、やってるね。」「こんなのあるんだ」という風な関心を持つことができるかなと思う。</p>
岡 村 座 長	<p>とてもとても貴重な意見だったと思う。我々としては、どうしても、何か配布したら見てもらえる確率が上がると思うが、通知が来る方が 1 番見ていただけるということは、言われてみれば確かにそうだなという気がする。この件のみならず、保護者への周知徹底といった情報発信については、常に色々な場面で重要になってくると思うので、参考にしていきたいと思う。</p> <p>それではまた、この手引きをご覧になられて気になられた点があれば、引き続き、その都度、教育委員会の方にご意見等をいただければと思う。一旦、手引きに関してはここまでとして、続いて実施記録案の方をご覧いただいてお気づきの点はないか。</p>
福田教育次長	<p>学校から提出があつた後に、これをどのように活かしていくのかといった意味も含めて内容を見ていただければと思う。</p>
坂本指導主事	<p>昨年度は、実施の時間帯を記入する欄があつたが、必要ではないということで削除してある。評価のところには、こういったことを書けるのではないかとこのところ書いてある。入れ込んだ方がいい項目なり、逆に削除した方がいい項目などあればご意見をいただきたい。</p> <p>今年度の 2 月に出していただくものは、これまでの A・B・C 共通の様式になる。この新しい実施記録は来年度の初めに配り、担当者会で様式が変わったという説明していく。評価のところにはできるだけ客観的な情報が入るように準備を進めてほしいとお願いしていきたい。そういった準備も必要だということを考えると、来年度から完璧の内容を求めると難しいと思うので、2 年ぐらいスパンを考えながら、徐々に移行していく方がよいと思う。来年度の 2 月にこれが出てきたところで、よい取組があれば好事例として資料提供いただけないかというようなことを学校にお願いしながら情報を整理していきたい。もちろん、推進サポーターが現場を回っている中でも、色々な取組の情報が得られるので、その情報も整理しながら好事例の一覧を作りたいと考えている。</p> <p>もう 1 つは、幼小中連携の日は、年に 3 回、各学期に設定されているが、依然として「2 回の実施でよいか？」という質問があつている。「基本的に各学期 1 回の実施をお願いしています。」と回答しているが、各校区</p>

	<p>の実施状況を把握することと、実施が適切に行われるようにするために必要だと考えている。</p>
岡 村 座 長	<p>この様式の「開催日・内容」の表は、今までも使っていたものか。</p>
坂本指導主事	<p>ほとんど変えていない。時間帯が削られていて、C グループ用の実施記録では「小中一貫カリキュラム」の選択肢を外したので、選択肢が少なくなっている。</p>
沖 田 委 員	<p>「内容概要」のところの A～F は何のために分けるのか。</p>
坂本指導主事	<p>どんな取組をしたかというのを把握しておくためのものである。</p>
沖 田 委 員	<p>報告書を見て、初めてこの A とか F というこの文言を目にするので、「担当者の手引き」にある「取組に関する表」とこれとリンクさせればよいのではないか。</p>
岡 村 座 長	<p>この分類のアルファベットを他のものに反映させると、今度は A グループ、B グループ、C グループのアルファベットと重なってしまうので、表記を少し工夫する必要がある。教育委員会、委員の先生方に聞きたいのは、この分類でよいのかということと、実際に記入されている先生でないとイメージが湧かない部分はあると思うが、先生方が実際にこの分け方だと書きづらいというようなことは実際にあるか。</p>
坂本指導主事	<p>どんな活動が多いのかというのを取りたくて数字に書き換えていたのかもしれないが、最近では特に数的な報告はしていないので、そういう意味で言うと、この数字の意味はないかもしれない。そうすると、ダイレクトに取組を言葉で書いた方が選ぶのに困るという心配はなくなると思う。</p>
沖 田 委 員	<p>報告するときに、もしかしたらうちの校区はこういう偏りがあるということに振り返りながら気づくかもしれない。</p>
坂 本 委 員	<p>どうしても A、B、C グループによって取組の内容は偏ってしまう。この数値を何かに使わないならば、ここを省いて、幼小中の連携の日に具体的に何をしたかを記入する形でよいのではないか。</p>
坂本指導主事	<p>現在は使っていないが、過去に使っていたのかもしれない。</p>
坂 本 委 員	<p>A グループはたくさん書けるが、C グループになると限られてくる。これを数値化して何かに使うというならば必要だが。</p>
坂本指導主事	<p>仮にこれに関する回答を求められたとしても、昨年度までのデータで回答することは可能だと思う。</p>

坂 本 委 員	<p>そうであれば、4の「本年度の取組」も省いて成果と課題ぐらいでよいかもしれない。今年、何をして、どんな成果が得られた、来年はこんなことをするというシンプルなものもよいと思う。2の「本校区の小中一貫カリキュラム」についても、毎年同じ内容であまり変化しないのかなと思うので、A、B グループ用の2はいるのかなと思ってしまう。課題と評価がどう違うのかといったところもある。成果と課題にしてシンプルに、来年度どんなことに取り組むのかぐらいでよいのかなと思う。「またこれを聞くのか」、というのが結構あるので、シンプルの方がいいのかなと思う。その方が、校区の代表者の負担が少ないと思う。</p>
岡 村 座 長	<p>内容概要において、取組を A～F のように分けることについては、先ほど話に出ていたように、実際に書いてみることによって取り組めていない部分が見えやすくなるという効果はあるとは思いますが、実際、これはどれに割り振るんだろうかと悩まれるような事例もあると思う。もし、その統計が必要であれば、出された報告書から委員会の方でそれぞれ A、B、C、D…に割り振っていくことも十分可能だと思うので、必ず必要なものではない気がする。もしそうされるのであれば、この1の(3)は、4の「本年度の取組」に合わせることはできるのではないかなと思う。そして、今、坂本委員からおっしゃってくださった2の「本校区の小中一貫カリキュラムについて」だが、これは、やはり毎年の報告書で、毎年同じことであったとしても、毎年書かねばならないものかなと思う。「本年度、本中学校校区が行っている小中一貫カリキュラムはこれです。」ということは、やはり各校区からの報告書には毎年必要だと思う。ただ、例えばだが、1の(2)の「9年間を通した教育目標、めざすことも像、連携の柱など」に向けてどんな小中一貫カリキュラムを組んでいましたみたいな形でここに連続して載せていただけると、もう少しイメージもつきやすく、書く流れも意識しやすいかなという印象をもった。</p>
坂 元 委 員	<p>1の(3)のところだが、A、B、C、D に E、F が加わったと思う。その当時、連携カリキュラムや小中一貫カリキュラムについては、それぞれの小中学校や幼稚園、保育園も含めての先生方で1回共通認識していただきたいという思いで項目が加わった。そのような意図があったことをお伝えする。</p>
岡 村 座 長	<p>この1の(3)の項目に関しては、入力する時の負担が大きいのかということもある。別にこれぐらいでれば負担はないので、表になっており見やすくてよいということであれば、そのままでよいとも思う。</p> <p>できるだけこの報告が、担当者の負担は少なくなるようにシンプルであるべきだと思うし、シンプルであるからこそ見えやすさが保証される部分があると思うので、検討していく必要があると思う。</p> <p>とりあえず今出た意見で、形を検討していただきたい。やはり必要であるものに関しては、削除してはならないものがある。どういう風な形式が最もシンプルになるかということをぜひ検討していただければと思う。</p>

福田教育次長	坂元委員が言われたように、教育委員会としてその会の1年間の中のどこかに入れてほしいということであれば、それを手引きの中にも落とし込んでおかないと、後から取り組んでいないということになってしまうので、教育委員会としてこれは必須、これは自由というところは整理しておきたい。
岡村座長	<p>そういうことになってくると、今度、逆にこれが表として残る意味が出てくるのではないかなと思う。</p> <p>続いて、資料4の好事例一覧である。何らかの形で今後その好事例が積み重なっていき、担当者の先生方がリンクから飛んでいき、他の取組をご覧になるということを期待しているが、この好事例の集め方であるとか、どこに載せるかとか、こう使ったらよいのではとか、こういうことであれば難しいのではといったことがあれば、ご意見いただければと思う。</p>
坂元委員	この「項目」のところだが、「行事」とか、「乗り入れ授業」などが書いてあるが、これはプルダウンで選択する形か。
坂本指導主事	例えば仮に10年ぐらい続けることができたとして、これをエクセルのフィルタ機能で「乗り入れ授業」としてフィルタをかければ、「乗り入れ授業」だけが出てくるのをイメージして、項目を入れるようにした。
坂元委員	その項目は何を入れられるのか。
坂本指導主事	項目は、はっきり意識はしてなかったが、先ほどの実施記録の内容概要のA～Gと合わせた方がよいと感じた。検索がしたいワードが入っていくとよいのではないかとと思っている。
坂元委員	これまでの話から、手引きの6ページの「主な取組」が、①～⑨まで整理してあって、ここにリンクしていくのが1番すっきりすると思った。全部ここに立ち返る。そうすると教育委員会としても学校としても見やすいと思う。選択が少なくなる項目はあるかもしれないが、整理していただけるのであれば、ありがたい。
岡村座長	<p>ここの整理はぜひやっていただけるとよいのではないかなと思う。この①から⑨と、先ほどの報告書の内容概要のA～G、そしてこの好事例集の項目の部分、ここはぜひ揃えていただけるとよいと思う。そして、これを揃えるのであれば、逆に、おそらく好事例ではないものでも、例えば一覧でこれはもう載せられるでしょうみたいなことがきくと出てくると思う。要するに、「中学校卒業時点での目指すこども像」が共有されているかどうかとかは、各中学校区のものを一覧に載せることなどもできると思うので、そういう意味では、好事例集だが、好事例によらないものなども単純に一覧で載せられそうなものなどを載せることが今後出てくるかもしれないので、その辺については、臨機応変に対応していければよいかなと思う。</p> <p>「目指すこども像」の好事例となると、どれも全部好事例でしょうとなる</p>

	<p>ので、そうってしまった場合は、例えば、今年度の全中学校区の「目指すこども像」一覧が載っていればそれで終わるということでもよいかなと思う。それを載せるか載せないかということも含め、偏りが出てくることが当然考えられるので、検討していく必要があると思う。</p> <p>その他、この資料に関して、ご意見はないか。</p>
坂本指導主事	<p>小中一貫教育だより「つなぐ」は、ダイジェスト版として、写真を抜いてまとめて、PDF ファイルとして、ホームページに載せようと思う。もう少し量を減らした方がよいなどの意見があればいただきたい。写真があった方がよいとは思いますが、長期間掲載することを想定しているので、写真を掲載することは難しいと思っている。</p>
岡村座長	<p>ちなみに、ここに載っているものが1番最初の立ち上げの段階の好事例としてどうか。おそらくそのファイルが開かれた時、1年目は何もないわけなので、その時にこの「つなぐ」で今まで掲載してきたものの中で、もしその学校からの資料が残っていたり、提供されたりしているものがあれば、これが1番最初のスタート時点での好事例集として出ていけばとてもよいのかなと思う。確実に業務は、結構大変になってしまうが、そのうちのいくつかでも構わないので、最初に載せておけるとよいと思う。</p> <p>それでは、一通り資料については眺めることができた。委員の方々からもし言い漏らしていること、気になられたこと等が他にあれば、完成までまだ時間があるので、いつでも事務局へご連絡いただければと思う。</p> <p>今年度は、今後の小中一貫教育及び幼小中連携教育について、これから各学校が主体的に取組を進め、自走していくためには、どのような仕組みを整えればよいかというテーマでこの会は進んできた。それでは、時間が迫ってきたが、先生方の方で現在の取組や今後の先生方の目指す部分、各中学校区で今後取り組みたいと思っている部分など、先生方から一言ずつ最後に頂戴できればと思う。</p>
水本委員	<p>冒頭で忌憚のないご意見をということであったので、要望として、熊本市は非常に大きな学校を抱えている自治体なので、難しいところはあると思うが、小中一貫教育を充実させていくためには、現場の自走ももちろん大切だが、やはり行政と学校現場が両輪となってやっていかなければならないと思う。熊本では産山村、全国で見ると東京の品川なども早くからされているが、ある程度行政がシステムを作って取組をされているところがある。熊本市の場合は小中一貫カリキュラムや連携カリキュラムは、ある程度現場が作って、それをベースにしながら現場が取り組んでいるところだと思う。だから、自走という言葉が出てはいるけれども、これまでもある程度自走してきた部分はあると思っている。</p> <p>そこで、行政のシステム面のフォローということで、第1回目に私が一例として言ったこととして、外国語の専科が小学校にいたので、余裕があれば中学校に行くことも可能であるという話をさせていただいた。お金がかかることなので難しいことも承知の上で発言したが、他にも「心かがやけ月間」や「心のきずなを深める月間」などもあるので、そういうところでも連携が進んでいくとよい。これらはあくまでも例だが、やはり行政の</p>

	<p>方もある程度システム面でフォローしていただけると、先生方のモチベーションも変わってくると思う。熊本市はこれを目指してるんだということを行政側から発信しながら、フォローしていくことで、先生方の意識も変わってくると思う。職員も入れ替わっていくので、やはり現場の自走だけでは限界があると感じている。自治体的に非常に大きいので無理なことは承知で言っているが、そういうところも行政として考えていただければと思う。</p>
<p>片 山 委 員 (桜木東小学校長)</p>	<p>本校はCグループということで、正直、職員の中で小中一貫教育が話題として上がることはあまり多くないが、私としては小中一貫教育というのはとても大事だと思っているので、先ほど作成すると言われた好事例集を見たいと思っている。ただ、一般の先生たちにとっては、なかなか難しい部分もあると思うので、この小中一貫教育日より「つなぐ」が今、校務支援システムのグループウェアで定期的に届いているので、それが来た時に小中一貫教育に力を入れなくてはいけないと私も思うし、職員の方もそう思うと思うので、各学校が自走していくためにも、この「つなぐ」は、ぜひ継続して出していただけたら助かる。</p>
<p>坂 元 委 員</p>	<p>小中一貫教育については、担当者や管理職が理解しておけば、推進しやすいと感じている。あわせて、地域の方への周知というところで、地域の方へ説明をすると、「小中一貫校になったということで、校舎は一緒になるんでしょう」といったことを尋ねられる。小中一貫教育とは何かというところを、市全体としても、学校からも発信できるようにしていかなければならないと改めて感じたところである。</p>
<p>村 本 委 員</p>	<p>今年、校区の校長先生のリーダーシップによって、幼稚園と小学校と中学校の職員全員で人権教育の研修会の機会を作っていただいた。「小中一貫教育を進めるためには担当者の役割が重要です」と手引書には書いてある。私はそれもあると思うが、その担当者の先生はその仕事だけをしているわけではないので、その校区として、こんなことを大事にしていくとか、こんな子どもたちを育てていきたいと思いますというのを引っ張っていくためには校長先生の力がとても大きいと感じている。今年の架け橋期のカリキュラム作りは、校長・園長会で説明をいただいて多くの方が認識することができたように、校長先生方に対して、こういう取組がどんな効果があるからやるんだということを認識していただくような場があればよいと思う。</p>
<p>武 藤 委 員 (芳野中学校長)</p>	<p>今年度、もう1回原点に立ち返ろうということで、今年度はお互い授業を見合う期間を作ることにした。今月中旬から、小学校を見に行く中学校の先生、中学校を見に来る小学校の先生というような形で取組を行った。実際に中学校から小学校に行って、学年によって子どもたちの様子が違うことや、「小学校でこんな取組をしているなら、中学校もちょっと頑張らなければならない。」といった声が上がったり、その逆のケースもあったりして、とても良かったと思っている。小学校は9月に2週間、中学校は12月までの3ヶ月間、いつでも先生たちが自由に行き来して授業を見合う期間</p>

坂 本 委 員	<p>を設けた。</p> <p>まずは先生たち同士が仲良くなって、そしてお互いのこどもたちのことをよく知る。そこから小中一貫教育をもう1回見つめ直そうということで取組を進めている。今日いただいたご意見や他校の好事例なども参考にしていきたい。</p> <p>天明中学校はB地区だが、やはり校長先生が「この小中一貫教育をなぜするのか」といったところをしっかりと意識することが大事だということを、前回、村本園長先生が言われた時に改めて思ったところである。</p> <p>今年度、とにかくこどもたちが楽しく学校に通うことができるようにということで、今日は午前中に2、3、4時間目は、4つの小学校の6年生が来て、本校の総合的な学習の時間で「地域の取組や課題」、「小学校閉校後の跡地利活用」などについて取り組んだものを、ポスターセッション形式で発表を行った。小学校6年生が来て、中学生は自信をもっているのか、緊張してるのか、表情がとても良く、小学校のこどもたちと話しながら、「また来てね。」とか、「待ってるよ。」とかいう姿を見ることができた。</p> <p>ナイストライでは、今年は小学校にナイストライに中学校から行かせていただいたが、1年生に丸付けをしたり、教えたりすることで、こどもたちのやる気に繋がっていく。何にでもチャレンジしてみて、ダメな時はダメで修正をして、いいなと思ったら続ければよいというスタンスで取り組んでいる。</p>
沖 田 委 員	<p>Cグループになってくると、同じ場所で同じ時間でというところが1番難しいが、先ほど話があった通り、先生たちがまず連携する、繋がるということから始めるのが最初だと思った。次期学習指導要領では、授業時数が弾力的に調整できるというような話もあるので、そのようなことが可能になってくると、学校独自や地域独自というのがもう少しやりやすくなるだろうと思っている。それを見通して、今、何ができるかということを考えていきたい。</p>
中 釜 委 員 (市 P T A 協議会)	<p>資料を読ませていただき、感じたことがある。保護者も幼小中の連携や小中一貫教育の活動の情報をもう少しキャッチしないといけないのかなと思う。ただ、さきほどあったように、「すぐーる」にPDFファイルで送られてくると、これを開いて親が一目見ればよいのではないかと思ったところである。今、上の子は高校生だが、高校の「すぐーる」のようなアプリケーションには「見ました」というチェック欄がある。それを見ると、学校側も見たのがわかるのかなと思う。校長先生から「すぐーる」で学校だよりが送られてくるが、「来てるな」と思いながら見ている。「すぐーる」で広報をしていただければ、親も見er機会が増えると思った。</p> <p>あと、手引きの「担当者の動き」についてのところを見させてもらったが、結構、たくさんあるという感覚があるので、初めて担当する先生方は、これを見て、どう思われるのかなと思った。月ごとの、上旬、中旬、下旬ぐらいでの簡単なスケジュールや、どの時期にこれをした方がよいというぐらいの内容でよいのではないかな。</p>

藤 枝 委 員	<p>昨年からの小中一貫教育懇談会に参加させていただき、保護者の立場でも色々なことを学ぶことができた。私の学校はCグループだが、毎週担任の先生が1週間ごとの時間割を作ってくださっており、その中に初めて「幼小中連携の日」というのが入っていて、「やってるんだ!」と思い、初めてそこで目にした。その時初めて目にしたので、やはりもっと発信していった方がよいと思うし、多分それだけを見た保護者さんは、「何、学校一緒になるの?」という風に思われる方もいるのかなと思った。本当に先生たちに頑張ってもらっていて、学校の中で幼小中の連携や小中一貫教育をみんなでも頑張っていこうという風にされているというのもすごくわかったので、今度は保護者の中からも、幼小中一貫というのができればいいなというのを、漠然とずっと考えていた。今は授業参観のように決められた日にしか学校に行けていない感じではあるが、例えばそれをPTA主催で年に3回ぐらい「授業参加ツアー」みたいなものを、小学校、中学校、もちろん幼稚園の方たちにも保護者から発信をして、もちろん学校とも連携をさせていただきながら、そういう日を作って「来ませんか」という、ツアーガイド付きでさせていただけたら、ざっくりと学校を知ることができるのかなとも思う。「自分のこどもが行く小学校ってどんな学校だろう?」、「中学校ってどんなところだろう?」といったことを知る機会にもなるのではないかなと思っている。もしそんな機会ができたらいいなと思う。そういうことを保護者の中でも発信して、考えてやっていけるようにできたらいいなと思う。</p>
岡 村 座 長	<p>今年で懇談会の座長させていただいて3年目になるが、毎年、最初に、この会で言わせていただいていることは、小中一貫教育、幼小中の連携を推進していくためには、基本はこども同士が仲良くなること、そして、その場で働く先生方同士が仲良くなること、すなわち、お互いがお互いの顔を見知っている状態で、「はいはい、あそこのね、小学校の〇〇先生・・・。」と、これができる状態になっているというのがまず最も大事ななという風に個人的には思っている。</p> <p>そのためには、行政側は様々な仕組み作り、システム作りをされ、それぞれの学校の先生方は、日々のこどもたちとの関わりの中で、あくまでも目指すべきところはこどもがより幸せな未来を過ごせるように、そのために小中一貫教育がどのような役割を果たしていくのかということを考えていかなければいけないと思う。</p> <p>今回、1つの区切りを迎えるということで、「自走していく」という表現は使わせていただいているが、当然これは手放していくということではなく、行政は引き続き、現場から声を聞きながら、どういう仕組み作りをしていくのか、そして現場も、どのようなやり方がより現場はやりやすいかということを忌憚なく意見交換をしていく。また、忌憚ない意見交換をするためには、今度は教育委員会の先生方と現場の先生方が仲良くということがすごく大切になってくるのかと思う。</p> <p>人間社会はあくまでその社会にいる人たちがどのような関わりをし合っているのかで多くのことが決まっていく。極端なことを言ってしまうと、相手がどんな人か知らなければ、それだけで私たちは時に大きなトラブル</p>

	<p>まで発展させてしまうことがある。心理学ではすごく昔から言われてることだが、電車に乗ってる時に隣の人のイヤホンの音漏れがした時に、イヤホンからシャカシャカといった音が聞こえるから腹が立つわけで、そこから聞こえてくる歌が自分の知っている歌だったら、腹が立たないこともある。「何かわからん」というのが、実はすごく私たちを不安にさせる。だから、「中学校は何かわからん。」、「あそこの家庭の保護者さん、何かよくわからん。」という状態であれば、やはり一歩踏み出していくことがすごく大切になると思う。小中一貫教育、幼小中の連携、すべてこういったところと繋がってくると思う。</p> <p>私事ではあるが、実はこの土日、学会で福岡の大学に行ったが、学会のシンポジウムのテーマは、まさしく「架け橋期の接続」であった。私が司会の担当で、福岡市教育委員会の方や福岡の保育園、幼稚園、小学校の先生方にお話をいただいた。やはり、他の自治体もとても苦勞されている様子であった。今度はまた、そういった自治体同士で意見交換などをしていて、様々な形で子どもたちのためにできるところから今後取組を続けていければよいかなと思う。</p> <p>今回で、懇談会自体は一区切りとはなるが、まだまだ手引きも完成まで時間がかかろうと思う。教育委員会も大変かと思うが、今後とも何卒よろしくお願いする。</p>
--	---

4 事務連絡

5 閉会